

不登校支援の充実へ 校内フリースクールの閉室日改善を求める



丸岡 弘満 議員
(創政会・加西市民の会)



問 不登校支援については随分と議論してきた経緯があり、学校内に安心できる居場所をつくるべきとの提案もした。市内4中学校に開設した校内フリースクールでは、一定の成果が見られていると思うが、どのような効果や生徒の変化が見られるのか。

答 (教育長) 登校できずに授業に行きづらくなった生徒が、校内フリースクールにしばらく通ううちに教室に戻っていった事例もあり、不登校の子どもたちの安心できる居場所ということで、中学生にとっても校内フリースクールの認知が深まってきています。

ルの認知が深まってきています。

問 市内4中学校のうち、2校は火曜、他の2校は水曜が閉室日となっており、通室を続けたい義務教育の生徒が、週4日しか利用できない。ふれあいホームも毎週水曜日が閉室で、2校の生徒は実質通えない。なぜ、週1回の閉室日があるのか。

答 (教育長) 週1回ぐらい休みがあった方が通いやすいとの思いや、学校によっては教室の隣にあり、構造上、カウンセリングに支障を来す理由もあります。また、支援員が報告書等をまとめるのに、1日休みがあった方がしっかりとした報告書がまとめられるという理由もあります。

問 「個に応じた学びの場所を選択できるようにしている」「生活リズムの維持」「安心できる

居場所の確保」「継続的な関わりが重要」との答弁をしてきているが、閉室日があることで、生活リズムの乱れや意欲の低下、給食が食べられないなど、保護者への負担なども大きく、閉室日が子供たちの前向きな取組を妨げていることから改善策を検討すべきである。

答 (教育長) 子供たちが、リズムよく学校に来ることができるようになるために、毎日開けることは大切です。まず、支援員の確保が第一になってきますが、今後、対応できるように検討していきます。

■その他の質問項目

- ・障がい者の法定雇用率引き上げに伴う、労働条件の確保と合理的配慮について

通学路の安全確保と防犯対策



大前 裕也 議員
(創政会・加西市民の会)



問 通学路における防犯設備の設置状況をどう把握しているか。

答 防犯灯は、令和8年6月1日現在、市内5,648灯を管理しています。防犯カメラは主要交差点等に市が67台設置し、自治会等が設置するカメラには補助金を交付しています。防犯灯の設置は区長からの要望で、防犯カメラの補助事業は地域が希望する箇所へ設置されています。

問 危険箇所の調査と改善の優先順位は。また、所管が分かれる縦割りの弊害を感じるが、地域と連携した計画策定は可能か。

答 PTAや学校等からの要望を取りまとめ、「加西市通学路交通安全推進連絡会」で協議し、合同点検を行っています。今後は、泉小学校のバス通学開始に伴う周辺対策を優先しつつ、関係機関との連携を深め、地域の意見を適切に施策へ反映させていきます。

問 電気工事不要で災害にも強い太陽光発電型の防犯灯や防犯カメラの導入を検討すべきではないか。コスト比較も行うべきだ。

答 電源がない場所にはソーラー式の防犯灯を採用して

いますが、一般的なLED防犯灯(約4,000円/基)に比べて、ソーラー式は高価(約6万円/基)です。防犯カメラについては、ソーラー式の設置実績はありません。費用対効果を考慮しつつ、今後は必要箇所への設置を検討します。

要望

今後、市には「安全マップの作成(可視化)」「防犯灯、防犯カメラのコスト比較による効率的整備」「地域と行政が共同で整備計画をつくる方針の構築」の3点を検討していただきたい。

